

06.オリエンテ駅



1998年リスボン万博に合わせ完成したカラトラバ設計の構造美の駅舎。コンクリート剥き出しのトラス組コンコースとホームの屋根、エントランスの大庇が特徴。

ホームの屋根は高く設定され、駅舎としての機能と周囲からの視認性が確保されている。ホームの床にはガラスブロックが散りばめられ、8路線あるコンコースへの自然光を確保し、安易に照明に頼らない工夫がされている。

また、同時にホームの人間模様が垣間見れコンコースとの繋がりが保たれている。

緩やかに曲線を描くコンコースのトラス躯体は、それ自体が空間の性格を決め、またそのトラスアーチの中を動線が貫き、複雑にフロアが構成されている。

都市に対する駅舎と線路の存在は、それ自体が都市を分断することになるが、オリエンテ駅は路線が高架になっており、東西を分断することなく、都市の機能がうまく繋がっている素晴らしい駅舎だった。